

公益社団法人 日本重症心身障害福祉協会

令和4年度 事業報告書

1. 公益社団法人としての事業推進

令和4年度は、公益社団法人日本重症心身障害福祉協会として、重症心身障害児者の尊厳を尊重し、その福祉の向上に関する事業を行い、その家庭とその地域の福祉の増進に寄与すること並びに重症心身障害療育の理念及び成果の普及を目的として、公益事業を推進した。

今年度においても新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」とする。）は、当協会の事業運営に大きな影響を与えた。新型コロナの流行が始まって3年目となるが、感染拡大と減少の波が繰り返し押し寄せ、8月にピークを迎えた第7波、そして年明けの1月にピークを迎えた第8波と多くの人々が感染する結果となった。その一方で、第8波のピークから急激に減少する新規感染者数やオミクロン株による病状の変化、社会経済情勢の悪化からの回復期待等により、政府の新型コロナの基本的対処方針が変更され、マスクの着用方針等が令和5年3月13日に緩和、新型コロナの感染症法上の位置づけが次年度の5月8日に5類感染症に位置づけることとされるなど、大きな状況の変化があった年度であった。

このような状況の中で、10月の療育学会学術集会は、第7波と第8波の合間の感染者数が低い水準の時期であったことから現地開催に踏み切り、その後に感染例の報告等もないことから感染対策を適切に講じることで対面集合型の研修会の実施が見通せるモデルとなった。

2. 諸会議の開催

当協会の事業について、重要案件を審議し執行するために、以下の会議を開催した。

(1) 総会（定時総会）

令和4年5月19日（木） オンライン開催

令和4年12月20日（火） 決議の省略による開催

(2) 理事会

令和4年4月16日、5月19日、10月19日、令和5年3月9日に計4回、開催された。

第1回理事会では、前年度の事業報告、収支決算、新規会員施設の審査、定時総会に向けた確認等が行われた。

第2回理事会では、学術委員会委員長の選任、第33回重症心身障害療育学会学術集会（高知）の開催方法について議論された。

第3回理事会では、新規会員施設の審査、認定重症心身障害看護師制度細則の一部改正、決議の省略による総会の招集、監事候補者、協会就業規則の改正等について議論さ

れた。

第4回理事会では、令和5年度事業計画書(案)、令和5年度予算(案)、定款の一部改正、役員の報酬等に関する規程、各種委員会の謝金規程、令和5年度定時総会及び全国施設協議会の開催、オリックス宮内財団からの福祉車両の寄贈先の決定等について議論された。

(3) 各種委員会の開催

各委員会は、以下の通りに開催された。

① 医療問題検討委員会

・第1回 令和4年5月9日(月) オンライン開催

障害者施設等入院基本料、特定疾患病棟入院料に係る「データ提出加算」の改正内容の確認および問題点の検討がなされた。

・第2回 令和4年8月8日(月) オンライン開催

先天性又は進行性の神経・筋疾患の患者及び障害児(者)リハビリテーション料に規定する患者に関して、FIM評価及び実施計画の義務の対象との関係について、入院料算定比較表改定について、データ提出加算について検討された。

② 福祉問題検討委員会

・第1回 令和5年2月27日(月) オンライン開催

入所支援部会及び在宅支援部会の合同で重症心身障害福祉施策に関するコロナ禍の先にある課題と展望についての意見交換を目的に開催され、コロナの影響による短期入所の見合わせによる減収、離職者の増加、急激な物価高の影響等について議論されるとともに、地域の医療的ケア児への支援状況、児童発達支援センター等の検討会の報告がなされた。

③ 実態調査委員会

・第1回 令和4年12月15日(木) オンライン開催

実態調査報告書「超重症・準超重症」関係集計表の項目の決定。自施設調査データの有効活用方法について検討された。

④ 学術委員会

・第1回 令和4年6月28日(火) オンライン開催

第33回学術集会高知大会に向けての査読方法についての検討、学会誌の発行スケジュール、対面開催時の発表者欠席時の対応等について検討された。

・第2回 令和4年8月2日(火) オンライン開催

第33回学術集会高知大会のプログラム委員会の役割を兼ねた委員会として開催され、演題の査読結果の報告、学術集会の運営、大会プログラムについての確認、読売療育賞の審査について報告・検討がなされた。

⑤ 人材育成・研修委員会 職員研修部会

○職員研修部会は次の通り開催された。

・第1回 令和4年4月25日（月） オンライン開催

本年度各職員研修会の開催方法について話し合わせ、5コースをオンライン開催とし、施設管理研究会コースをハイブリッドでの開催が実施できるか検討することとなった。

・第2回 令和4年7月21日（木） オンライン開催

看護師コース、栄養士・調理師コース、看護管理研究会コース、施設管理研究会コースの状況報告及び医療技術管理、保育士・児童指導員等コースの内容が検討された。

・第3回 令和4年11月8日（火） オンライン開催

施設管理研究会コースのハイブリッド開催について、栄養士・調理師コースの課題について、ブロック制研修会の検討、令和5年度年間行事日程について、研修会一般開放について議論された。

○専門看護師部会は次の通り開催された。

・第1回 令和4年6月17日（金） オンライン開催

シラバスの検討、コロナ禍における実習の変更点、申請確認及び承認、資格失効者の再認定制度の申請確認、第11回認定審査結果と課題及び第12回認定審査スケジュール、第6回認定更新審査の前回からの追加報告及び第7回認定更新審査スケジュール、認定審査及び認定更新審査の審査会委員の決定プロセス並びに査読料、各ブロックの学会の評議員の推薦確認、令和4年度フォローアップ研修会、認定審査委員長の選出と今後の施設協議会の認定者の茶話会、表彰式等の検討がなされた。

・第2回 令和4年9月5日（月） オンライン開催

資格失効者の再認定制度の申請確認及び申請者の審査、各ブロックの進捗状況、シラバス及びカリキュラムの確認、今後の教育機関の合併、協会ホームページの認定者の声の取扱い、認定審査及び認定更新審査の審査会の委員決定プロセス並びに査読料、令和4年度フォローアップ研修会、次年度の会議の開催方法、収支報告書（令和3年度）の確認等について検討がなされた。

・第3回 令和4年12月12日（月） オンライン開催

コロナ禍における実習の変更点及び申請確認並びに承認、看護管理者研究会コースのアンケート結果、今後の研修会のあり方、フォローアップ研修会の進捗状況、協会ホームページの認定者の声に関して、重症心身障害看護師制度細則の報告等について検討がなされた。

・第4回 令和5年3月13日（月） オンライン開催

コロナ禍における教育機関での実習等の変更点の申請確認、進捗状況の確認、シ

ラバスの確認、協会ホームページの認定者の声に関して、フォローアップ研修会の報告（R5年2月10日開催）等について検討がなされた。

⑥ 広報委員会

委員会の開催に代え令和4年9月28日にメールにより、広報紙「重症児とともに」の紙面を刷新することについての意見交換を行い、新たな紙面構成の方向性についての検討がなされた。

⑦ 特別委員会（『療養介護のガイドライン』作成特別委員会）

委員会活動は行われなかったが、会員施設の入所児・者へのネームリストバンド等の装着および、衣服の表に名前を表記するかどうか等のアンケートの実施により、施設における生活の実情把握がなされた。

3. 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会等の開催

(1) 日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会

本協議会は、重症心身障害児者の療育に関する調査研究並びに施設の運営上の諸問題及び従事する職員の研修等について協議を行い、重症心身障害児者の療育の向上を図ることを目的に、厚生労働省の後援を得て令和4年5月20日（金）の1日間、オンラインにより開催。参加129施設及び行政担当者、総勢495名が出席した。

○午前には行政説明として岡崎 俊彦氏（厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 障害福祉課障害児・発達障害者支援室 移行支援専門官）がご登壇いただき、その後、当協会各委員会より令和3年度の活動報告、平成3年度の日本重症心身障害福祉協会東日本・西日本施設協議会の報告、特別報告として現在の新型コロナウイルス感染症による「コロナクラスター対応支援について」及び「診療報酬改定「データ提出加算」について」の報告が行われた。

○午後は、協議テーマ「在宅ケア、移行医療と障害施設の役割」と題して次の3講演を実施、その後オンラインによる活発な協議が行われた。

- ・講演1「障害児の医療的ケアの流れ ～障害児ニーズの変遷～」
山田 直人（緑成会整育園 園長）
- ・特別講演「在宅診療と移行医療の現状」
冨田 直（東京都立小児総合医療センター 在宅支援科）
- ・講演2「気管切開患者と安全な過ごし方：カニューレフリーのケア管理も含めて」
鈴木 康司（緑成会整育園 医師）

(2) 東日本・西日本 施設協議会

本協議会は、東日本・西日本ブロックごとに、重症心身障害児者施設の運営上の諸問題及び重症心身障害児者の療育に関する情報交換・協議を行い、重症心身障害児者の療

育の向上を図ることを目的に次の通り開催した。

①第49回東日本施設協議会は、令和4年11月11日（金）の1日間、神奈川県横浜市横浜医療福祉センター港南を配信会場として、オンライン開催により実施された。参加者は、65施設から250名の参加であった。

【概要】

第49回東日本施設協議会は、5つのテーマの講演と質疑応答を設けて実施された。

- ・テーマ1の講演1は、神奈川県福祉子どもみらい局共生推進本部室利用者支援担当課長より条例制定までの経過や当事者目線の障害福祉推進条例の概要、条例の「わかりやすい版」の作成など、神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例についてであった。
- ・講演2では、東洋大学の高山教授に利用者目線の意思決定についての講演であった。
- ・テーマ2は、横浜医療福祉センター港南の榊原生活支援部長より、医療型障害児入所施設及び療養介護施設における意思決定支援について、アンケート結果を踏まえた講演であった。
- ・テーマ3の講演1は、横浜市こども青少年局障害児福祉保健課長より、医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律についての講演であった。
- ・講演2は、神奈川県立こども医療センター施設長より、障害児入所施設が行うべきことを、移行支援や県の状況調査をもとにした講演であった。
- ・テーマ4は、with コロナに対応するこれからの施設運営について、ソレイユ川崎の副施設長より、問題点や今後の運営方法について、ライフゆうの施設長より、ライフゆうでの解釈を交えた講演であった。
- ・テーマ5は、災害時のBCPの作成と運用について、横浜療育医療センターのセンター長より、センターの概要や災害時訓練を実施した様子などの講演であった。
- ・総会では、東日本施設協議会会長の選任や東日本施設協議会ブロック幹事の選任など、重要な決議事項が行われた。

②第43回西日本施設協議会は、令和4年11月17日（木）18日（金）の2日間、奈良県奈良市東大寺総合文化センターにおいて対面集合型およびオンラインによるハイブリッド形式により開催された。

参加者は、62施設から会場に123名、オンラインで120名の計243名の参加であった。

【概要】

総会のテーマは「在宅支援 ～これからの重心施設の役割～」と題して、医療・福祉・行政のさまざまな視点からの意見交換が行われた。

○1日目は、開会式、総会の後、行政説明として、厚生労働省障害福祉課移行支援専門

官から「障害児福祉関係施策の動向について」、障害児入所施設の運営指針、障害児入所施設からの移行支援、障害児通所支援に関する検討会、児童福祉法改正の概要、医療的ケア児支援の方向性等についての講演であった。

・特別公演Ⅰでは、東大寺長老・東大寺総合文化センター総長から「奈良時代から始まっている医療福祉の取り組み」と題して、奈良時代に聖武天皇により医術等の学問の奨励と後継者養成制度の確立、光明皇后による施薬院の設置により庶民に医療福祉の恩恵が始まったことなどの講演であった。

・シンポジウムではテーマ「在宅支援～医療的ケア児を支える～」に沿って5名のシンポジストより発表。1番目は、滋賀県での医療的ケア児とそのご家族についての講演。2番目は、医療的ケア児への小児科医の関わりについて将来を見据えた取り組みなどに付いて講演。3番目は、奈良県における小児訪問診療の取り組みについての講演。4番目は、東大寺福祉療育病院の短期入所の現状及び短期入所の諸課題についての講演。5番目は、奈良県福祉医療部障害福祉課課長より、奈良県では、医療的ケア児も含めた重症心身障害児者等の県全体の支援拠点として、令和3年1月に「奈良県重症心身障害児者支援センター」を設置し、医療的ケア児等コーディネーター養成に取り組んでいることについての講演であった。

・5講演の後、座長とシンポジスト5名によるディスカッション、参加者との間で意見交換が行われ、コロナ禍における緊急時の短期入所受入れの事例や重症児の胃ろうなどについて会場から沢山の質問があり、議論を深めた。

○2日目の特別講演Ⅱは、大阪発達総合療育センターセンター長から「これからの医療型障害児入所施設の役割」～在宅移行支援とエンド・オブ・ライフ支援について～と題して、多職種協働で行った在宅移行支援およびエンド・オブ・ライフ支援の経験と今後の医療型障害児入所施設の新たな役割についての講演であった。

・全体会議(1)では協会の理事長から協会加盟施設が3施設増え、全国では138施設となったこと、新型コロナウイルス感染症の対応として、特に短期入所について減収による大きな打撃となっているので、アンケートを基に厚生労働省に要望書を提出したこと、診療報酬改定によりデータ提出加算に係る入院基本料の見直しについては、200床以上の施設(病院)への適用に付いて猶予期間の配慮についても同じく要望書を提出したことなどの報告があった。全体会議(2)(3)では、新型コロナウイルス感染症等の感染症アンケート調査報告および施設内骨折アンケート調査の報告があった。

4. 重症心身障害児者施策への対応

重症心身障害児者施設における諸課題に対し、医療問題検討委員会をはじめ各委員会の連携の基に対応を図った。

5. 全国重症心身障害児者施設職員研修会の実施

重症心身障害児者施設に勤務する職員をはじめとする各研修対象者に、次の日程により研修を行った。

(1) 看護師コース

9月8日(木) 9:50~17:00 オンライン開催

会場: アンピールホテル大阪(大阪府大阪市) 近畿ブロック(22施設) 担当

受講施設数: 88施設、受講者数: 約160名

- ・テーマ「その人らしく生きる」を支える看護

～あなたの看護が重症児者の未来につながる～

- ・講演1「在宅支援のやりがい」

丸山 美智子(一般社団法人「幹」在宅看護センター 代表理事)

- ・講演2「重症児者に支えられて」

小山 京子(全国重症心身障害児(者)を守る会会長代行)

- ・講演3「人生会議について語り合える関係づくりをめざして～ベルデさかいの取り組みの現状～」

大塚 寿子(堺市立重症心身障害者(児)支援センター ベルデさかい看護部長)

- ・実践報告会 テーマ「記憶に残る看護(家族支援・在宅支援・看取りなど)」

「その人らしく生きるを支える看護」平塚 真一郎(北海道療育園 看護師)

「記憶に残る看護」星野 通(療育センターきぼう 看護師長)

「18トリソミーのAくんと家族のグリーフワーク-愛着を継続する絆-」

荒谷 智子(東京都立府中療育センター 看護主任)

「突然の死別を経験したご家族へのグリーフケア」

仲本 有加(重症児・者福祉医療施設ソレイユ川崎 看護副主任)

「コロナ禍で経験した看取り看護の1事例を振り返る」

中村 ひかり(鼓ヶ浦こども医療福祉センター 看護師)

「進行性難病の重症心身障害児を養育する母親が不安なく短期入所できるようになるための取り組み」古賀 瑠美(ゆうかり医療療育センター 看護師)

(2) 栄養士・調理師コース

10月14日(金) 9:10~16:00 オンライン開催

会場: フクラシア八重洲(東京都中央区) 北海道ブロック(6施設) 担当

受講施設数: 110施設、受講者数: 185名

- ・テーマ「コロナ禍において、重症心身障害児(者)の特性を理解した
栄養管理と食事提供を目指す」

- ・講演I「重症心身障害児(者)ならではの栄養管理」

徳光 亜矢(北海道療育園 診療部長)

- ・講演II「地域で行う、食支援・摂食嚥下障害への対応」

飯田 貴俊(北海道医療大学リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科 教授)

- ・事例発表

I-1「新型コロナウイルスによるクラスターにおける給食提供」

有賀 聖子（北海道療育園 管理栄養士）

I-2「非常食の見直し～周辺施設の状況を踏まえて～」

小杉 麻里（医療福祉センター札幌あゆみの園 管理栄養士）

I-3「コロナ禍での行事食の変化」

森 優子（緑ヶ丘療育園 管理栄養士）

II-1「まとまりきざみ食について」

成田 由美（美幌療育病院 管理栄養士）

II-2「系列施設間の連携について」

布施 葉子（大倉山学院 管理栄養士）

(3) 看護管理研究会コース

日時：10月27日（木）10：00～16：40 オンライン開催

会場：東大寺総合文化センター小ホール(奈良県奈良市) 近畿ブロック(22施設)担当

受講施設数：104施設、受講者数：212名

※今年度は協会認定重症心身障害看護師に関する内容の研修としたため看護職のオープン参加とした。

- ・テーマ「重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師の現状とこれからの課題」
～重症心身障害看護師のさらなる発展のためにできることを考える～

- ・講演1「協会認定重症心身障害看護師制度の誕生の背景と意義」

口分田 政夫（びわこ学園医療福祉センター草津 施設長）

- ・講演2「重症心身障害福祉協会認定重症心身障害看護師研修（近畿地区）

実施までの道のり ---認定看護師育成の本質と現状の厳しさ---

窪田 好恵（元立命館大学生存学研究所客員 協力研究員）

- ・実践報告会

報告1「協会認定重症心身障害看護師制度の概要や現状について」

新関 翼（芳香会病院青嵐荘療育園 看護師長）

報告2「各ブロックの現状報告」

北海道ブロック 原田 直志（大倉山学院 看護部長）

東京ブロック 布施谷 咲子（秋津療育園 療育部長）

関東・中部ブロック 市原 かつ江（福祉医療センター太陽の園 看護部長）

神奈川ブロック 田口 真奈美（相模原療育園 看護・生活支援部長）

近畿ブロック 逸見 聡子（びわこ学園医療福祉センター草津 看護部長）

中国・四国ブロック 飴脇 美穂子（西部島根医療福祉センター 看護部長）

九州ブロック 吉本 法生（久山療育園重症児者医療療育センター 看護部長）

報告3

シラバス担当 中村 千鶴子（北九州市立総合療育センター 総看護師長）

認定審査委員長 池畑 久美子

（千葉県千葉リハビリテーションセンター愛育園 看護局長）

認定更新審査委員長 逸見 聡子

(びわこ学園医療福祉センター草津 看護部長)

報告4「今後に向けて」

新関 翼(芳香会病院青嵐荘療育園 看護師長)

(4) 医療技術管理コース

日時：11月27日(日) 9:00~17:00 オンライン開催

会場：フクラシア八重洲(東京都中央区)

受講施設数：90施設、受講者数：約291名

- ・基調講演「医療型障害児入所施設における倫理的課題：QOL (Quality Of life) 支援とQOD (Quality of death=Quality of dignity) 支援について」

船戸 正久(大阪発達総合療育センターセンター長)

- ・分科会

① 薬剤師分科会

1) 報告会

「デパケン細粒40%懸濁液による経鼻胃管栄養チューブ閉塞を防止するために～とろみ調整食品添加の有用性～」

浜田 茂明(徳島赤十字ひのみね総合療育センター)

「重心施設薬剤師でもできる学会・論文発表のTips」

「DI業務・症例報告を例に～」

森本 真仁(徳島赤十字ひのみね総合療育センター)

「重心施設におけるキノロン系抗菌薬の大腸菌に対する薬剤感受性」

佐藤 直行(東京都立東部療育センター)

「腎機能について2022」長谷川 祐佳(一宮医療療育センター)

「重症心身障がい児(者)のてんかん」相田 文彦(療育センターきぼう)

2) 意見交換会

② 検査技師分科会

- 1) 新型コロナウイルス感染症検査の増加で受けている影響
- 2) 新型コロナウイルス感染症検査の検体採取
- 3) 試薬・消耗品の安定確保のための取り組み

③ 歯科衛生士分科会

- 1) 新型コロナウイルスの感染状況による診療及び環境の変化について
- 2) 各施設からの症例報告と意見交換
- 3) 情報交換
- 4) 次年度について

④ リハビリテーション分科会

- ・講演「重症心身障害児者へのリハビリテーション支援のこれからへー支援パラダイムルネサンスに立ち返る間身体リハビリテーション技術論の提案ー」

岸本 眞（堺市立重症心身障害者（児）支援センターベルデさかい
リハビリテーション部 顧問）

- ・協議「リハ分科会のこれから」

⑤ 心理担当者分科会

- ・テーマ

『重い障害のある方の心の理解と支援～コロナ禍を経験しあらためて考える』

1) 話題提供

『客観的なストレス指標作成の試み』

『重症児者のレジリエンス（心のしなやかさ、心の回復力）についてのアンケートの報告』

2) グループディスカッション・シェアリング

⑥ ケースワーカー分科会

- 1) 虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会の運用について
- 2) 入所申し込みから入所決定までのプロセスについて
- 3) 措置児童について

- ・全体会「各分科会討議報告 及び 講評」

(5) 保育士・児童指導員等(療育職員)コース

日時：12月8日（木）9：00～16：10 オンライン開催

会場：フクラシア八重洲（東京都中央区）

受講施設数：138施設、受講者数：約231名

- ・講演1「超重症児への保育・療育～呼吸障害の理解・対応も併せて～」

竹本 潔（大阪発達総合療育センターフェニックス 園長）

- ・講演2「行動障害の考え方と行動観察と予防的かかわり」

早坂 裕実子（社会福祉法人 まつど育成会 統括施設長）

- ・講演3「糸賀一雄・岡崎英彦の療育理念と現場で考える今日的意義」

口分田 政夫（びわこ学園医療福祉センター 草津施設長）

- ・施設活動報告

報告1「みんなで楽しもう～施設と学校のコラボレーション」

小出 聖子（神奈川県立こども医療センター

重症心身障害児施設ひだまり生活支援課主任主事 保育士）

報告2「個々の障害特性と個別支援計画への理解を深める日中活動の紹介

とその効果について」

小澤 明人(堺市立重症心身障害者(児)支援センターベルデさかい理学療法士)

藪内 愛未、島田 詩織、野田 瑞希、松浦 雄史(同センター生活支援員)

報告3「重症心身障害児(者)に対する視線入力装置の活用」

下雲 典子、近江 奈津子(仙台エコー医療療育センター 作業療法士)

・全体討議「施設活動報告を受けての全体討議・講演全体の質疑応答」

(6) 施設管理研究会コース

日時：1月19日(木) 13:00~16:30

20日(金) 9:00~11:30 ハイブリッド開催

会場：アクトシティコンgresセンター(静岡県浜松市)

東海北陸甲信越ブロック(18施設)担当

受講施設数：105施設、受講者数：約248名

・テーマ「これからの重症心身障害施設とDX」

・講演I「障害児福祉関係施策の動向について」

岡崎 俊彦(厚生労働省障害福祉課障害児・発達障害者支援室 移行支援専門官)

・講演II「福祉業界におけるICT・AI研究事例」

紺野 剛史(富士通株式会社コンバージングテクノロジー研究所

ヒューマンセンシングPJプロジェクトマネージャー)

本多 達也(未来社会&テクノロジー本部 Antenna プロジェクトリーダー)

・分散討議 Aルーム「電気ガス料金対策について」

「虐待防止に関する取組みについて」

Bルーム「DPC加算(診療体制加算)の届け出について」

「【医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律】

施行されたことに伴う変化について」

6. 第33回重症心身障害療育学会学術集会の開催

第33回重症心身障害療育学会学術集会は、厚生労働省、高知県、高知市及び読売光と愛の事業団等の後援を得て、令和4年10月6日(木)、7日(金)の2日間、高知県高知市において開催した。

3年ぶりの現地開催となった本学会は、2日間で実人数134名(事前申し込み124名、当日参加10名)の参加があり、後日オンデマンド配信(事前申し込み76名)も行われた。登録演題は51演題あり、51演題が採択された。2日間で33施設から10セッション50演題(1演題取り下げ)の発表が行われ、第18回読売療育賞には読売療育賞1題、奨励賞3題が受賞された。学術集会前日には、土佐希望の家 医療福祉センターの

施設見学を実施し、39名が参加した。

7. 在宅重症心身障害児者の支援者育成事業

医療的ケア児への支援の強化並びに各自治体における重症心身障害児者のコーディネータ育成支援への取り組みに関して、全国施設協議会の特別講演「在宅診療と移行医療の現状」において医療的ケア児への支援の現状についてお聞きするとともに、福祉問題検討委員会において長崎県の現状等について報告がなされた。

8. 重症心身障害児者施設永年勤続者の表彰

重症心身障害児者施設に勤務する10年以上の永年勤続者への表彰は、定時総会開催時に行う永年勤続者表彰式において表彰しているが、定時総会はオンライン開催のため、表彰状の発送をもって表彰式を行った。令和4年度表彰者は102施設534名であった。

9. 日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師制度の充実と認定重症心身障害看護師合格者の認定証の授与

平成24年度から重症心身障害看護の質の向上、認知度のアップ、看護師の確保と育成に繋げ、重症心身障害児者とその関係者に適切な看護を提供し、重症心身障害児者のより良い生活・生涯に寄与することを目的として、日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師制度を実施し、認定重症心身障害看護師合格者に認定証を授与するとともに、認定後5年を経過する者を対象に認定更新を実施した。

認定証授与式は定時総会がオンライン開催のため、認定証の送付をもって、授与式に代えた。また、既認定者フォローアップ研修についてもオンラインにて実施した。

○令和4年度認定者および認定更新者の数

- ・第11回認定者数 申請者30名 認定者27名
- ・第7回認定更新者数 申請者54名 更新者53名

・第2回フォローアップ研修会

事前参加申し込み 188名

実参加数 154名 アンケート送信をもって受講者とした。

10. 全国重症心身障害児者施設実態調査の実施

本調査は、公法人立の当協会会員の重症心身障害児者施設の利用者を対象とし、療育の向上に資するため毎年実施しているが、令和4年4月1日現在での施設等の実態を調査した。

また、個人チェックリスト・新版【第Ⅱ版】についても、調査を実施した。

超重症児（者）・準超重症児（者）の実態調査については、個人チェックリスト・

新版【第Ⅱ版】にて調査できるよう来年度に集計プログラム作成を予定している。

11. 関係機関及び関係団体との連絡、連携の強化

全国社会福祉協議会、全国重症心身障害児（者）を守る会、日本肢体不自由児協会、日本知的障害者福祉協会等の関係機関との連携を密にして円滑な協会運営を図るとともに、オリックス宮内財団等の関係団体相互の連絡を密にして重症心身障害児者の療育に関する理解を深めて、相互の連携強化を図った。

12. 広報紙の発行

広報紙「重症児とともに」は、全国施設協議会の行政説明および講演を文字お越しにより編集を行い発行し、当協会会員施設、関係者及び関係機関等へ紙媒体で配布するとともにホームページに掲載した。なお、年度末に発行した第159号から紙面構成を一新して、広報紙としての体裁を整えた。